

授業改善等に関する報告書（2025年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2025（後期）生活文化学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
生活文化史 b	笠原 良太	おおむね回答者からは肯定的な評価だったが、学生の意欲・探究心を十分に引き出せなかった。来年度は、前期の「生活文化史a」からの連続上で、理解度を深められる仕組みに修正したい。
基礎演習 a（論理的表現とコミュニケーション）	井上 陽童	「とてもためになる授業だった」とのコメントがあり、大変うれしく思いました。今回の講義で学んだ読み・書きのコツを、今後活かしてくれることを願っています。井上
基礎演習 a（論理的表現とコミュニケーション）	田中 正浩	アンケート結果を受け止め、受講生にとって満足度の高い、自身の成長を実感できる授業をめざして工夫・改善していきたい。とくに、授業方法及び使用教材（資料）における受講生目線による改善が必要であると感じている。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	島崎 あかね	皆さんへの呼びかけが不十分で、回答者が2名のみということがまずは大きな反省点です。 後期のゼミナールでは、「ゼミ活動活性化」の助成金を活用して日野駅周辺と大学周辺の「Walking Map」を作成しましたが、当初の予定よりもコンセプトがだいぶ変わってしまった部分もありました。もう少し、計画的にまた積極的に取り組みやすい題材でゼミ活動を活性化出来たらよかったですと思います。 4月からのゼミは、卒業論文の執筆が中心となりますので、春休みからテーマを考え、先行研究の収集などを進めて行きましょう。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	田中 正浩	アンケート結果を踏まえてゼミを振り返ると、考え、議論することで各自が積極的にに関わり、新たな発見によって高い満足度が得られるようなゼミにしていく必要があると思われる。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	井上 陽童	4名の学生は1年間を通じて意欲的に取り組んでいました。今回、アンケートの取り組みがありませんでした。今後、学生へ向けてアンケートのアナウンスをしっかりとするよう心がけます。井上
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	作田 由衣子	一人一人がとても面白いテーマを選んで、頑張る研究に取り組んでいました。その他のゼミ活動も、積極的に参加してくれてとても良かったです。引き続き、よろしくをお願いします。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	井口 眞美	子どもたちとの交流、大変なこともたくさんありましたが、楽しむことができたことと思います。 来年度は、卒業論文の作成が中心となります。 自分が疑問に思っていること、知りたいと考えていることを論文の形にしていきたいと思います。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	大澤 朋子	1年間おつかれさまでした。 みなさんよいチームワークができていたと思います。 4年生になっても協力し合いながら卒論乗り越えていきましょう。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	八木 孝憲	引き続きアンケートへの回答を依頼するところから取り組みたい。個別の目標及び全体の目標それぞれにおいて、スケジューリングの大切さを指導したい。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	高橋 桂子	ゼミ生3人、どなたも記述なしです。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	塚原 拓馬	回答者数が少ないため、回答率を高めるように努めたい。 ゼミナールの内容を充実するようにより尽力していきたい。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	水野 いずみ	様々なゼミ活動に、ゼミ生どうして協力して取り組んでいました。引き続きこの調子で卒業論文に取り組んでみましょう。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	野尻 美枝	初めてのゼミナール、徐々に学術的難易度が上がる内容でしたが、それぞれが決めたテーマに対し、クリティカルな視点で考察する力が身につくように思います。今後は、プレゼンテーション力、語彙力を意識的に培っていきましょう。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	笠原 良太	後期は「家族×生活」をテーマにした「現代版画文集」の制作という独自の課題を課したが、意欲的に取り組んでくれて、効率よく活気のあるゼミ運営ができた。ポイントを的確に絞って表現することは卒論と同じなので、来年度の卒論制作も同様に、意欲的に取り組んでもらいたい。
ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	渡辺 敏	授業のアンケートの回答を頂けるように時間を設定いたします。

[2025 (後期) 生活文化学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
生活の科学 火曜配信 (日野)	水野 いずみ 塩川 宏郷 渡辺 敏 島崎 あかね	オンデマンド形式の学科授業にがんばって取り組めていました。次年度以降につなげていってもらえたらと思います。 「生活の中にあるさまざまな事象を科学的な視点から捉える」ことを意識して、第6回から第10回までの5回分の授業を担当しました。実際にお料理や運動を実施して、そこで見られた変化などを体験的に学んでもらえたと思います。これからも日常生活のいろいろなことに、じっくり目を凝らしてみる時間を作っていきましょう。(島崎)
生涯発達心理学 b	塚原 拓馬	全体平均よりやや高い評価を頂くことができました。今後はより満足度、理解度ともに高められるように尽力していきたい。
生涯発達心理学演習 b	塚原 拓馬	受講者が少数であったため、今後は受講者増加に努めたい。 回答者からは肯定的な評価を頂けたので継続していきたいと思います。
女性の健康と現代医療 水曜配信 (日野)	塩川 宏郷	日常生活における医学的な話題、ストレスや生活習慣病について特に女性に特化した内容を学びました。配布した資料は今後も参照することがあると思いますので折に触れて復習してください。
家庭経営学概論	高橋 桂子	エクセルを使ってシミュレーション、現実的すぎたかもしれませんが、そういうものだということを知っておくことも大事です。リボ払い、分割払を多用すると将来の自分を苦しめることも実感できたと思います。 背伸びをせずに、大学時代はじっくりと自分と向き合い、各地を旅行してほしいと思います。若い時はすっぴんにTシャツで良いのです。
社会福祉	大澤 朋子	半年間の受講おつかれさまでした。 授業内容の変更、急なオンデマンドへの変更にもご協力いただきありがとうございました。
子ども理解とカウンセリング	塚原 拓馬	回答率が大変低かったため、回答率を高めていくように努めたい。